

特集

日本を元気にする

ICT



編集にあたって

屋代 智之

千葉工業大学

2011年3月11日、忘れもしない東日本大震災が日本を襲った日です。この日は奇しくも、私がプログラム委員長を務めていたDICOMO2011の論文投稿締切日でもありました。私の職場では被害は比較的軽微でしたが、ニュース

等で情報を収集してみると東北地方の被害の甚大さは想像を絶していました。

そのような状況下で、DICOMOの開催も危ぶまれましたが、DICOMO開催に向けたエネルギーは逆に高まっていたように感じます。その後、紆余曲折があったものの、最終的にDICOMOは無事開催され、多くの参加者によって例年通りの活発な議論が執り行われました。

今年のDICOMOのテーマは「日本を元気にするICT」でした。これは震災前に決めたものですが、結果的に震災後に開催するにあたってこれほどぴったりのテーマはない、というものでした。その中で、「日本を元気にするICT」というDICOMOのテーマそのままに、日本を元気にするためにどうしたらよいか？というナイトセッションが開催されました。

ここでの議論およびそのエネルギーをなんとか形にしたい、という思いからDICOMOに参加された方の中で、特に元気な若手研究者を中心に、日本を元気にするためのアイデアを思い思いの形で文章にさせていただきました。

本特集は、12件の記事をまとめたものです。それぞれの著者の方にストレートに気持ちを書いてもらいました。このため、編集委員会による修正依頼は最小限にとどめました。以下に簡単に紹介させていただきます。

まず、「大規模災害と官学連携プラットフォームによる被災地支援の試み」では、ICT技術者による災害対応支援や、官学連携プラットフォームの試行などを紹介しています。次に「つながり続けるためのICT」では、震災の被災地からの情報発信などの取り組みについて、過去の震災の例も含めて紹介しています。3件目の「学と民との協働によるシステム開発—医療現場における多言語対話支援を目指して—」では、現場に根ざしたシステム開発の必要性を示すとともに、ニッチな市場を大事にするべきという考えが書かれています。

続いて、「スマートフォン向け適正アプリの開発と配信サイト—日本の伝統ICT産業の危機—」では、スマートフォンアプリの販売サイトの光と影を紹介

し、それらに対する取り組みを紹介し、技術者がどうすべきか、という示唆が書かれています。「スマートフォン向け屋内測位技術の動向と新技術の紹介」では、測位技術の動向、特に屋内測位の動向を紹介し、これを使って人と人をつなぐ温かい技術を作ろうという提言がなされています。

6件目の「日本を元気にするもったいない精神」は、もったいないという精神を大事にしていくべきという考えについて書かれています。「ICTですべての世代を元気にしよう」では、高齢者とICTの関係をふまえて、若者を元気にする方法、ICTの果たす役割などについての提言がされています。次の「人をつなぐ対面コミュニケーション支援技術—リアルな対面交流とソーシャルサービスの連携—」では、対面コミュニケーション支援サービスの現状と今後の課題が紹介されています。「日本を元気にするセキュリティ技術」では、タイトル通り日本を元気にするためにセキュリティ研究者はなにができるか？住基ネットとマイナンバーの活用などの具体例を挙げつつ、プライバシー保護の観点の重要性について書かれています。

10件目の「愛とICT」は、愛(恋愛?)をネットワーク技術に対比させて、対面コミュニケーションに近い遠隔コミュニケーションをICTで実現する手法の示唆について書かれています。「仮想化の仮想」では、国家を仮想化してしまい、新しい世界を作るという壮大なアイデアが紹介されています。いろいろと考えさせられます。最後の「子供の頃描いた夢の再考—日本を元気にするストーリーミング配信—」は、夢の実現を目指して(夢を持って!)研究していくことの重要性を紹介しながら、没入型ストーリーミング配信技術を紹介しています。

以上12件、さまざまな分野で活躍する研究者が書いたエネルギーあふれる記事をまとめることができたことと自負しております。

(2012年2月13日)